

つなぐ棚田遺産 飯見の虫送り

— 兵庫県宍粟市 —

兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター 合 田 弘

1. はじめに

表紙写真、写真-1 は、毎年7月下旬ごろ飯見の棚田を守る等を目的に結成された「飯見夢むら棚田の会」主催の「飯見の虫送り」に参加した時に撮影したものです。



写真-1 飯見の虫送り（7月下旬）

2. 飯見の棚田の概要

宍粟市は兵庫県中西部に位置し、2005（平成17）年4月に旧宍粟郡の4町（旧山崎町・旧一宮町・旧波賀町・旧千種町）が合併し誕生しました。

南北に広く、森林が9割を占め、県下最高峰の氷ノ山ひょうのせんのほかに1,000mを超える山々がそびえ、清流「揖保川」など美しい自然資源や風景が四季折々の風情を織りなしています。

北は鳥取県、西は岡山県に接しており、京阪神と中国地方を結ぶ中国自動車道と山陽と山陰を結ぶ国道29号が交差する西播磨地域内陸の交通の要衝となっています。

(1) 飯見の棚田 波賀町飯見地区は、宍粟市北部の山の中腹にあり、東に向いた田は日照時間が長く、山懐の棚田は昼夜の温度差が大きいことから、自然の恵みを活かしたコメ作りが盛んな45戸の小さな集落です。

飯見地区へは、中国自動車道「山崎 IC」から国道29号を北へ23km、約30分の西（左）側の山の中腹にある集落です。

この棚田でのコメ作りの歴史は古く「播磨風土記」に「飯戸の卓」にてコメを食したと記述があり、飯見地区では約1,300年前からコメ作りが行われてきたと考えられています。

(2) 飯見のほ場整備 平地部が少ない飯見地区の先人は、少しでも平坦な場所を開墾し、やがて1,100筆あまりの棚田が形成されました（写真-2）。

千枚田での農作業は重労働であり、「このままでは、将来誰も農業を継ぐ人がいなくなるのではないか」との危機感からほ場整備導入について話し合いを開始しました。

法面や耕作道を作るための減歩面積も大きくなるなどの反対意見もあり、事業化に向けての話し合いは難航しました。約2年間の歳月を経て「区画を大きくする」ことで合意形成に至りました。

ほ場整備事業は5年間の工事を経て1990（平成2）年度に完成しました。

1,100筆から171筆へと区画整備され大型機械による営農が可能となり、以前とは比べものにならないほど生産性が向上しました（写真-3）。

(3) 飯見夢むら棚田の会 2005年、米価低迷に喘ぐ中、高齢農業者の「自分たちでコメの値段を決めたい」という発言に若い担い手農業者が賛同し、楽しい農業、担い手が進んで引き継いでくれる農業を目指す「飯見夢むら棚田の会」（以下、「棚田の会」という）を発足しました。

「棚田の会」は、地域の棚田を守り、担い手を育成し、



写真-2 飯見地区のほ場整備前（1,100筆あまり）



写真-3 飯見地区のほ場整備後（171 筆へ）

耕作放棄地を発生させないことを念頭に置きつつ、具体の地区課題に対応すべく、①楽しい農業（価値を自分たちで決めることができるコメづくり）、②ふるさとのつながり強化（知名度の向上）、③コミュニティの深化（地域文化の継承）に向けた取り組みを目指す組織として農業者を中心に結成されました。

3. 飯見の棚田の虫送り

「棚田の会」では、地域の子供たちに^{キジ カモ}雉や鴨が訪れる自然豊かな棚田であることや、環境創造型農業のコメづくりの大切さを伝えるため、2015（平成27）年から「飯見棚田の虫送り」を実施しています。

この「棚田の虫送り」は毎年7月下旬に地域の子供たちが高低差約200mの畦道^{たいまつ}を、松明を持って約2kmにわたって歩く、飯見地区の夏の風物詩となっています（写真-1）。

この道中に鳴り物の騒音で虫を驚かせて飛び立たせ、松明の火に誘い込んで焼き殺すといったきわめて単純な内容で、村にいてもらっては困る害虫すなわち悪霊を村外に追い出すまじないとして行われています。

併せて、過去に途絶えていた、子供たちが夜明けとともに、田の給水口にお供えをして稲の無病、害虫の無きこと、豊作をお祈りする神事で、手を合わせて祈りを捧げる「田の神祀り」という伝統行事を復活させ、引き継いで行われています。

4. つなぐ棚田遺産 飯見地区散策

毎年6月から9月にかけて、日本風景街道新因幡ライオン協議会が主催、NPO法人奥播磨夢倶楽部が企画・運営して「飯見の棚田ウォーク」が開催されています。

昨年、2023（令和5）年6月下旬、風景街道フットパス「飯見の棚田ウォーク」コースマップを片手に飯見地区を散策しました。

（1）上野発電所 1928（昭和3）年に開設されたという関西電力上野発電所は、上野地区800世帯分の電力を賄っています。ここで使われている水は水管を通して上流の野尻地区から送られています（写真-4）。

（2）飯見の棚田① 2022（令和4）年、農林水産



写真-4 関西電力上野発電所



写真-5 飯見の棚田 絶景ポイント（ひとのわ前より）

省が認定する「つなぐ棚田遺産」に選ばれました。

農村景観と棚田を次代に繋いでいくために、有機肥料栽培や減農薬栽培に取り組み、美味しくて身体によいコメづくりを実践しています（写真-5）。

（3）ひとのわ（飯見の案山子） 飯見地区では、担い手不足が顕著化してきた棚田を、虫送行事や農村案山子^{かかし}など工夫してPRしています。また、住民同士のきずなが希薄化しないように親睦を図るため、コミュニティカフェ「ひとのわ」を設置し、地域の賑わいづくりに努めています（写真-6）。

（4）加茂新明神社 加茂新明神社は、揖保川の支流引原川の谷に向かった傾斜地に、約45世帯の家々が密集して建ち並ぶ波賀町飯見集落の氏神様です。約300年前に岡田一族の祖先が京都上賀茂神社から新明様を預かってきたのが始まりとされています（写真-7）。

（5）飯見の棚田② 2023年、「棚田の会」は、地区住民の自らの努力・創意工夫により、豊かで活力あるむらづくりを展開し、会員が望む「地域ぐるみ」で取り組む楽しい農業の実践が評価されて、農林水産業の振興、生活環境の改善、地域文化の継承など、地域ぐるみで取り組まれているむらづくりの優良事例に対して表彰する「豊かなむらづくり全国表彰事業」で農林水産大臣賞を受賞しました。具体的には、①環境創造型農業（有機肥料、減農薬）等によりコメのブランド化、併せて、自ら米価を決定することによる所



写真-6 ひとのわ（飯見の案山子）で小休符



写真-8 飯見の棚田ウォーク（棚田一望絶景ポイント）



写真-7 加茂新明神社（飯見集落の氏神様）



写真-9 棚田米を使った地産地消手造りおにぎり弁当

得の向上, ②食味検査最高得点者表彰や最高収量者表彰等を行い, 地区全体で楽しみながら栽培技術の向上, ③棚田の維持管理と農業用施設の長寿命化, ④地域の祭りや「棚田の虫送り」などの行事に参画・開催し, 伝統文化の継承, 環境保全意識の向上および, 都市農村交流の場を創出することによる地域の活性化, ⑤「新米まつり」の開催や都市部でのPRにより観光客やコメの買い手の誘致による販売の促進, などを図っています。

「棚田の会」の方々が案内人などスタッフとして全面協力した風景街道フットパス「飯見の棚田ウォーク」は, 都市農村交流の場を創出し, 「棚田の会」が認証を受けた「ひょうご安心ブランド」の棚田米を使った地産地消の手造りおにぎり弁当をいただき, 楽しいひとときを過ごすことができました (写真-8, 9)。

5. おわりに

「飯見夢むら棚田の会」の発足は, 高齢農業者の「自分の作ったコメに自分で値段をつけたい」との, ただ一言から始まりました。規約に「何よりも楽しい農業を目指す」ことを明記し, さまざまなアイデアを出し合って, 会員が望む「「地域ぐるみ」で取り組む楽しい農業」を実践しています。

地域の棚田を守る等を目的に結成された「飯見夢むら棚田の会」の岡田会長は「棚田を守り, 活かし, 次代に継承するため, この地域にあった農業を, オリジナルで, オンリーワンの活動や取組みを「地域ぐるみ」で継続的に取り組んでまいりたい」と思いを寄せられ



写真-10 岡田会長による飯見の棚田等概要説明

ています (写真-10)。

今年も丁度, 本誌第8号が届く月 (8月) の最終日, 飯見の棚田の稲穂が垂れ下がる頃, 「いいみ棚田おにぎりウォーク」と銘打って, 風景街道フットパスが開催されます。

今回も地元カフェ「ホット・カレン」がつくる地産地消の「おにぎり弁当」を楽しみにしています。

四季折々の「飯見の棚田」を味わいに訪れてみてはいかがでしょうか。

参考文献

- 1) 農林水産省近畿農政局: 令和5年度豊かなむらづくり全国表彰事業近畿ブロック優良事例集 (2024)
- 2) 波賀町誌編集委員会: 波賀町誌, 波賀町 (1986)
- 3) NPO 法人奥播磨夢倶楽部, 宍粟市波賀町飯見自治会監修: 日本風景街道新因幡ライン 風景街道フットパス「飯見の棚田ウォーク」コースマップ (2023)